

## 議 事 録

会議の名称	第1回三田市総合計画審議会（総合戦略部会）
開催の日時	令和3年8月18日（水）18時30分～20時15分
開催の場所	オンライン会議
出席した委員の氏名	中瀬会長、角野副会長、赤澤委員、田邊委員、清水（陽子）委員、岡田委員、高崎委員
欠席した委員の氏名	和田委員
出席した庶務職員の職及び氏名	濱田副市長、高見副市長、田中市長公室長、太田政策課長、山谷総合計画策定担当課長、山中総合計画策定担当係長、澤崎総合計画策定担当係長、佐藤総合計画策定担当係長、橋本総合計画策定担当係長、靱井政策課係長、志水政策課事務職員
その他出席者	なし
傍聴者の人数	1人
議 題	(1) まち・ひと・しごと総合戦略について (2) 第2期三田版総合戦略骨子案について
会議の概要（結論）	第5次総合計画と第2期三田版総合戦略の関係について説明を行った後、第2期三田版総合戦略骨子案について意見交換を行った。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	資料13 まち・ひと・しごと総合戦略について 資料14 第2期三田版総合戦略【骨子案】
連絡先	市長公室政策課 電話（079）559 - 5038 内線（2211）

### 1 開会

＜靱井政策課係長の司会により開会、資料確認等＞

### 2 議事

#### (1) まち・ひと・しごと総合戦略について

会長：社会動態について話があったが、どの自治体からの転入人口が多いのか。

事務局：転出人口と同じく神戸や大阪からの転入が多くなっている。

委員：転出者で20歳代が多くなっているのはなぜか。

事務局：市の分析によると、20歳代では阪神間や大阪府へ就職する傾向となっており、単身の若者は職住近接を求めて転出していると考えられる。

委員：今まで価値観が続くのであれば、このような人口推計の通り進むと思うが、リモートワークの普及、空き家への移住や東京一極集中の是正など、近年の社会動向も踏まえたうえでの人口推計となっているのか。人口動態という観点から現在の社会情勢は三田市にとって追い風であると考えられる。

事務局：人口推計を行うと2065年に約65,000人との結果が出ている。現状で年間1,000人ほど減少しており、市としてもなんとかまちの活力を落とさないよう、まちづくり人口として

84,000 人を目標としている。その目標を実現できるような人口施策を打っていく必要があると考えている。

委員：まちづくり人口を設定しているように、数値目標も大事とは思いますが、量だけではなく質の問題も考えてはどうか。三田市が望むような人材が集まるような施策も打ち、量だけではなく質を確保していくことも大事だと思う。

委員：人口に対する0～4歳の子どもの数の割合について、第1期三田版総合戦略の期間中の減少幅が少ないと説明があったが、その理由は何か。

事務局：ウディタウンの最後の分譲販売の時期と重なっておりその影響と考えている。販売終了後は、減少傾向にある。

委員：合計特殊出生率が平成26年から27年に緩やかに増加している影響もあるかと思うが、三田市在住世帯で子どもが増えているのか、0～4歳の子どもの連れての転入者が多いのか。

事務局：0～4歳の子どもの連れての転入者が多くなっている。

委員：平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、三田市でも計画に基づき進めてきていると思うが、施策の影響もあるのではないかと。人口は減少しているが平成27年度以降の子育て支援施策の結果が出ているといったプラスの視点の見方もあるのではないかと。

委員：数値目標・成果指標について、協働事業採択実施件数の評価が唯一「×」となっているが、協働事業の募集について詳細をお伺いしたい。

事務局：協働事業提案制度については、現在は中止している。市から活動団体へ助成金を交付する制度だが、募集要項として交付額と同額の自主資源を用意する必要があり、活動団体にとって応募が難しいとの声もあったので、現在は新たな制度を検討している。

委員：学生や若者が三田の里山保全活動と仕事作りに尽力しているが、時給1,000円のバイト代で活動費用を捻出している。元手が少なく、これでは広がらない。市内で仕事を作りお金を循環させるために、最初だけでも支援して欲しい。また、協働事業だけでなく、市内の団体の活動について、広報等で応援してもらえるとありがたい。

委員：「評価」について、コメントに近いのではないかと。「評価」なので、どの事業で効果があり、また、効果が出なかった事業は何かを客観的に書く必要がある。

総合戦略について、まちとしての魅力を高めることで、人口を確保しようとしたものと説明がある一方で、魅力づくりは短期的に効果が見えづらい性質であると書いており矛盾しているように思う。

委員：社会動態について、兵庫県の会議でも同じような議論があった。20歳代では転出が目立ち、30歳代の男性では転入が多くなっている。学生は転出傾向にあるが、30歳代では仕事を求めて、あるいは得ている仕事を基にして住みやすい場所に転入してきている。特に、阪神南や三田市のようにニュータウンを持っている自治体に顕著に傾向が出ているのではないかと。

現施策では、人口増加に向けた施策が目立っていたが、三田らしい農業や自然、工業、商業があるといった点を上流に置いたときに、そのようなまちに住みたいといったニーズが出てくるのではないかと。評価としては、人口にダイレクトに影響する施策に注力してきたが、三田市の魅力となるようなもの、特に仕事といった点も上流に置くべきだと言及しても良いのではないかと。

会長：協働事業については行政が主導しており、市民主体の動きができるように展開していくといったニュアンスも必要ではないかと。

## (2) 第2期三田版総合戦略骨子案について

委員：事前質問にも関係するが、市として、三田市の魅力は何と考えているか。

事務局：第2期総合計画策定に向けて、多くの市民の方から意見を頂いており、その中でまちと自然が共存しているといったお声を多く頂戴している。大阪、神戸から近い立地であることもメリットである。

また、同様の人口規模の自治体と比べて高校の数も多く、大学もあり学びの環境が整っている。地域のまちづくりの活動も盛んで、地域の中での教育力もあり、人づくりをしていく環境も魅力であると考えている。

委員：率直な感想として、わかりづらい。三田市を売り込む戦略なので、ストレートに表現しないとわかりにくい。他市にはない三田市の魅力は何かを明確にしないとマーケティングはできない。大阪、神戸に近いという利点を生かすためにも「売りこむもの」がなければ始まらない。

また、市民の目線で考えたものにして欲しい。例えば、基本目標3にある「母校での子連れ同窓会開催支援」と表現があるが、子どものいない人たちが見るとどう思うかなども考えて欲しい。

別件だが、幼稚園再編の相談会の案内文で、苦情や要望、陳情をお伺いする場ではないと明記されており、まず「苦情」と記載されていることから、市民＝クレマーと見なしている姿勢が伝わり、市民感情を逆なでするような表現であった。このような公の文書が平気で発出されるような体制はいかがなものかと考える。戦略を考えていくうえで、三田市の魅力を明確にするという点と市民目線で考えるといった点を徹底して頂きたい。

委員：市民目線の話と関係するが、農業をする人の悩みとして、農地が余っており耕す人がいないので、負担が増えてきており担い手も高齢化している。

一方で、市民農園のニーズもあり需要と供給が成り立っている状態ではあるが、3反(約3,000㎡)を耕作しないと土地を借りれない。農地利用が農家の登録基準であり障壁となっている。定年後の65歳の体力で3,000㎡を手で草引きや虫取りをするのは無理がある。大阪では、登録面積を少なくして、準農家制度を設けている。岸和田では10分の1の3a(300㎡)から土地が借りられる。準農家に認定されると、JAの販売所で販売することができる。農家になる制度の障壁を是正して欲しい。

会長：農家組織については、制度疲労が起きている。これまでの制度では維持できない状況になってきている。

委員：三田の宝は何かという点で軸を持つと、戦略も立てやすいと思う。例えば、農業と決めると戦略も明確になってくる。

委員：第2部会でも農業の話がよく出ており、三田と農業の結び付きを改めて実感した。また、子どもたちが地元の野菜などの味を知ること大事だとの意見も出た。確かに戦略としては、軸が分かりにくい。農業を三田の軸だとすると、子どもに関しても農業を中心としてどう考えていくかという場合、美味しいものを求めて子どもが集まってくるなど、全て一本まとまって分かり易くなると思う。

委員：第3部会では、商工会やテクノパークの方から、三田の中での企業にも注目して欲しいとの話があった。事業者からはもっと三田と関わりたい、商工会からは市内での後継者不足についてのお声があった。今回の戦略の軸は、住んでいる人の目線になっており、三田で活動し

ている人たちや事業者の目線を入れてはどうか。

若者の力に期待するような戦略となっているが、三田の現状を考えると高齢者や中高年以上の力にもう少し注目してはどうか。理想を追いすぎているところもあるので、もう少し現状を見たらうえて冷静な分析を行うことも必要だと思う。

委員：三田市の軸を農業だけに絞ると、農業に関わらない人を排除することになる。これからの価値観としては、市民目線であらゆる人にフィットする戦略にすることが重要である。その中の強力なコンテンツとして農業があることを伝えるほうが良いと思う。

戦略について、基本目標2「移住」から始めるべきだと思う。まず選ばれるために、働く場を創出する。田舎では、1つの仕事で生計を立てるのではなく、複数の仕事で生計を立ててきた。三田でもそれができるのではないか。移住する際は、男性だけでなく妻や子どもにもフィットした環境が必要である。女性が地域で働くことで、コミュニティに入り込むことができる。

次に基本目標1「定住」がくる。新しい人に来てもらうためには、新しい人が三田で活躍できる余地が見えておかないと、選んでもらえない。その点を加筆する。新たなライフスタイルが出現し続けるといったことを前に出す。そのあと、基本目標4「活動・交流人口増加」として、あらゆる方へのフィット、最後に基本目標3「少子化対策」がくる。

委員：先ほど人の量だけでなく質を高めるという点について言及をした。農業には「人、モノ、金」を活かすプロジェクト・マネジメント、天候不順対応や獣害を回避するリスク・マネジメント、限られた畑の面積におけるポートフォリオ・マネジメントが必要で、常日頃からこのようなことを実践している人を間近で見る、または生活の一部に農業があることでこのようなスキルが自然と身につく、将来グローバルな人材を輩出することにもつながると考えられる。

委員：三田市の学校給食で使用する食材として、三田産の農作物をできるだけ増やしていくことで、市内での働く場の創出や地域内の経済循環につながっていく。高齢者を支える仕事の重要度も増している。仕事があれば他の地域に出ていく必要はない。家の老朽化の時期を迎えており、仕事は作れる。仕事を通して衣食住スキルの高い人材を育てておけば災害時の安心にもなる。

委員：基本目標の所は、文字だけでなく各目標が循環しているような図で示した方がわかりやすいのではないかと。

副会長：戦略を考えるうえで、三田市の魅力として、キラーコンテンツは必要だと思う。複数の仕事を持つという点は、移住者の方は実践されており重要な点だと思う。農業はひとつの切り口にはなるが、農業を活かして何に勝つかという点をしっかり議論するべきだと思う。

もう一つは、大都市ではないまちとしての魅力を考えていきたい。仕事をはじめ、多様な選択肢がありチャレンジできるといった切り口があっても良いのではないかと。

基本目標をみても今回の戦略では、なんとか人口を増やしたいという思いが露骨に出ている。人口が減少する中でも、〇〇がすごいみたいなことが言えると良い。定住・移住はもちろん重要だが、みんなをどう引き寄せていくかを考える必要がある。

会長：取り組みイメージの中で、今日出てきたボキャブラリーや事例なども使っていただきとりまとめて頂きたい。今日の意見については、取り組みイメージ集に入れるようなご意見を頂いたという認識のもと事務局で取りまとめをお願いしたい。

事務局：取り組みイメージについては、冊子の中で取り組み集としてまとめたいと思う。

会長：丹波市のおばあちゃんの里、アメリカのバークレーの事例等、何か三田でも特徴をもったまちづくりを進めて頂きたい。高齢者の力をどう生かしていくかというのも大事である。また、市民目線でどう作っていくのかというのも考えて進めて欲しい。

事務局：資料 14 について、多くの意見を頂戴したので、修正を反映し会長と相談のうえ検討しみなさんに提出したい。

### **3 閉会**

令和 3 年 8 月 24 日に開催予定であった第 2 回三田市総合計画審議会（総合戦略部会）については開催を見送ることを確認した。